



求められる「五人組運動」の強化



世界情勢で、特に「平和問題」については南北首脳会談とその「宣言」、そして朝米、金・トランプによる首脳会談で、潮目が動いてきました。

しかし、新自由主義以降、資本は凶暴化がますます強まってきました。全世界の労働者階級は少ないパイを奪い合う多国籍資本の総攻撃を受けているといえます。国内だけをとっても日本多国籍資本の「内部留保」が460兆円を超えたことから知ることが出来ます。一方、トランプは貿易戦争も辞さずと「アメリカ・ファースト」を掲げ、世界制覇をめざし、すべてを労働者階級の犠牲の上に強大な帝国主義国家を築こうとしています。

第二次世界大戦終了後73年になりますが、戦後のソ連邦を中心とした社会主義圏の拡大、そして全世界の労働

者階級の闘いで、まさしく「社会主義」の実現は目の前にあると言われた時期もありました。

だが、現状はどうか。当時のままの階級間の力関係では著しく労働者階級は力を失ってきました。そのため、現代資本主義では、労働者の資本への従属が強まり「賃金奴隷」の状態が深まってきました。

この状態を克服するためには階級間の力関係を再構築するしか解決の道はないということです。そこで提言ですが「小さな団結づくり」です。いきなり大きな団結は生み出せません。三池労働者運動の教訓です。無数の小さな団結の基礎となった「五人組運動」をつくりあげるしかないのです。私が関わってきた労働者運動の基点もここにあります。老婆心ですが私の提言とします。

労働大学副学長 市原 芳樹